Tulips University of Tsukuba Repository

平成27年度「カナダ校外学習」実施報告

著者	深澤 孝之, 仲本 佳子, 熊倉 悠貴, 安藤 愛, 高良 正輝
雑誌名	研究紀要
巻	53
ページ	1-10
発行年	2016-09
その他のタイトル	A Report on the planning and development of “the School Trip in Canada" 2015
URL	http://hdl.handle.net/2241/00144546

平成27年度「カナダ校外学習」実施報告

深澤　孝之　　仲本　佳子　　熊倉　悠貴　　安藤　愛　　高良　正輝
（平成27年度1年次担任団）

本稿は平成27年度に実施したカナダ校外学習について、目的、事前準備、現地での活動内容および実施後に行った生徒アンケート結果から見える成果や課題をまとめたものである。本来このような報告においては、校外学習を通して身につけさせたい力について、定性的あるいは定量的な評価軸を定め、それに基づいて論を展開すべきものであると考える。ただ、今回のカナダ校外学習が本校にとってはじめての校外学習ということもあり、事前学習を含めて具体的に何を行ったのか、という点を中心とした報告となった。また、実際に現地で活動してみないとわからない課題等も浮かび上がっており、これらの点をまとめることで次年度以降の校外学習の改善に資するものと考えている。

キーワード　ＳＧＨ　国際的視点　課題研究　校外学習　考察アクティビティ

1.　カナダ校外学習の目的等

本校では平成8年度（総合学科2期生）から海外校外学習を行っており、現2年次生までは2年次の後半（12月または3月）で実施してきた。本年度入学生からSGHの事業の一環として、1年次においてカナダでの校外学習を行うこととなった。その目的は、以下の通りである。

○地球市民性の早期の育成を図る。
○自文化とは異なる文化との個人的・直接的な交流を通じて、自文化ならびに異文化について学びあい、また、多文化共生への視点を養う。
○自文化とは異なる多様な社会環境・自然環境を体験し、国際的視野を広げる。

2年次で行っていた校外学習を1年前倒し、1年次で行うことにしたのは、目的の最初にあげた「地球市民性の早期育成のため」である。本校では海外に渡航した経験のある生徒は少ないばかりか、飛行機に搭乗したことがないという生徒も多い。書籍やインターネットで得られる知識も大切であるが、実際に海外へ渡航するからこそわかることも多いはずである。平成24年から平成26年にかけて筑波大学附属学校教育局を中心として筑波大学附属学校での「子どもの国際的資質を育てる実践」について研究がなされた。この研究によると、本校生徒は海外校外学習によって、外国人への親和性（いろんな国の人たちと知り合いになるのは楽しい、多くの外国人と友達になりたいと思うなど）や自国理解（日本人であることを誇りに思うなど）、英語力（自分の言いたいことを英語などの外国語で表現できるなど）などが向上していることが確認された。ここにあげられている項目は国際的な視点獲得の基礎的素養である。この基礎的素養を2年次後半ではなく、1年次のうちに育成することは、生徒自身のキャリア意識の形成にも、また教科科目への学習意欲を喚起する意味でも、加えて2年次以降に控えているSGHプログラムに積極的に関わろうとする態度を育てるためにも極めて重要であると考えた。また、カナダでの実施としたのは、多文化共生を国是とする国であることが最も大きな理由である。そのような国だからこそできる学習プログラムを作ることができるのではないかという期待があった。

2.　実施日程等

カナダ校外学習は以下の日程で実施した。生徒の希望により、1週間の滞在か2週間の滞在かを選択できるようにした。

【1週間グループ】
平成28年3月11日（金）～平成28年3月19日（土）
【2週間グループ】
平成28年3月11日（金）～平成28年3月27日（日）

1週間グループが63名、2週間グループが92名の参加であった（欠席者3名）。2週間グループの中から、特に課題意識のある生徒に対して、課題研究の特別プログラムを用意し、一部日程（4日間）を生徒の希望する活動を聞きながら組み立てるようにした。今回の校外学習全体（事前学習、現地での活動、事後学習）の概要については資料1

を参照されたい。

3.　事前学習

校外学習に向けた事前学習として主に次の活動を行った。事前学習はキャリアデザイン（毎週土曜日1，2限目）の時間を中心に行った。

【全体に関する学習】

○調べ学習（カナダの基本）「グループ」

カナダがどのような特徴を持つ国なのか、その基本情報について知ることを目的とした。国（地理・気候・生活など）、歴史、文化、教育、環境の５つのテーマを示し、5名1グループでそれぞれ各テーマを分担し調査し、情報の共有を行った。

○異文化ワークショップ「クラス」

実践コミュニケーショントレーナーとして企業研修など幅広く活動されている西田弘次先生をお招きし、クラスごとに3時間のコミュニケーショントレーニングを実施した。特にホームステイ先でのコミュニケーションの取り方について、その心構えや具体的な態度についてスキルトレーニングを実施していただいた。

○カナダ大使館出前講義「学年」

カナダ大使館の書記官に来校いただき、カナダの魅力、文化の特徴などについて具体的に講演していただいた。

○ホームステイオリエンテーション「学年」

取扱業者である(株)ISAの職員の方から、ホームステイ先での対応について、具体的な事例を出しながら説明をしていただいた。

○AIMS留学生交流会「グループ」

AIMS（東南アジア教育大臣機構加盟国を枠組みとするASEAN統合に向けた政府主導の学部生向け学生交流プログラムで平成25年度より日本が参加。プログラム参加国政府は、AIMSプログラムに参加する高等教育機関を選定し、自国からの派遣学生に対して奨学金等の財政的援助を行う）の制度を利用して筑波大学に留学している東南アジアの留学生約30名を招いて、留学生が取り組んでいる研究についての紹介や留学生自身のキャリアに関する話題などを中心にグループワーク形式で交流会を行った。

○その他説明会など「学年」

現地での活動に関する具体的な注意（バンクーバー市街班別自主研修に関する注意や講演会時の服装等）や空港での集合、チェックインから飛行機搭乗までの手順など一般的な校外学習の事前指導を行った。

【英語運用に関する学習】

○グループ別日本文化紹介発表会準備「グループ」

1週間目のグループごとに現地コーディネイター、およびバディに対して、自分たちの自己紹介も含め「日本の文化紹介」をテーマとしたプレゼンテーションを実施することとし、そのための準備を行った。発表の詳細については次項にて記述する。

○英語会話集中講講座「グループ」

出発の1ヶ月ほど前（1月30、31日）に二日間全12時間の英語会話集中講座を実施した。生徒10名にネイティブスピーカー講師1名を配置し、校外学習での具体的な場面を想定したケーススタディ形式で実施した。

【課題研究に関する学習】

○考察アクティビティテーマ学習「個人」

考察アクティビティについては次項で詳細を述べる。事前学習としては自分の選択したテーマに関する疑問や気づきをもって現地に臨むため、テーマや活動について必要となる基本的な事柄を調べる個人活動の時間を4時間程度確保した。

○個人テーマ（課題）設定「個人」

個人テーマについても次項で詳細を述べる。個人テーマの設定については、冬休み期間な長期休業期間を利用してできるだけ、時間のある中で生徒が考えることができるよう配慮した。

4.　現地での活動

4-1　考察アクティビティ

カナダ校外学習の中心となるのは、「考察アクティビティ」と称するグループ別活動である。

本節では、考察アクティビティの内容把握をするとともに、事後に行ったアンケートから生徒の学びや満足度を見ていく。考察アクティビティとは10名程度の本校生徒にバディが2名、コーディネイター（講師）1名がグループとなり行うグループ活動である。3日あるいは4日間を1つの活動単位としている。活動は①事前のディスカッション、②本活動、③振り返りのディスカッションおよび意見交換の流れとなるように構成されている。テーマはそれぞ

れ１週間組が「音楽・自然」および「音楽・スポーツ」の２種類、２週間組は「国・国境」、「先住民文化」、「多文化主義」、「音楽・スポーツ」の５種類である。１週間組の生徒は１つ、２週間グループの生徒は２つの考察アクティビティを選択する。

なお、アンケートは当校外学習を担当した（株）アイエスエイが帰国後に生徒に対して行ったものである。各項目４択で回答し、自由記述を設けている。

（1）１週間組

１週間組は「音楽・自然」は 36 名、「音楽・スポーツ」27 名がそれぞれ選択した。なお、「音楽」は共通であったため、合同での活動であった。

①「音楽・自然」

「音楽」ではアカペラで歌い踊る「グリー」の若者のパフォーマンスを見て、生徒たちも実際に英語で歌い踊り、英語のリズムを体感した。「自然」では、バンクーバー郊外のグラウスマウンテンにて、先住民の自然観の講話やシロフクロウについてのレクチャー、スノーシューを履いての散策が行われた。

生徒たちの活動への積極性については、「クラスルームにおける活動」として音楽や自然への学びについてのレクチャーや振り返りは約半数が「積極的に参加できた」と回答している（図１）。それに対し、「グリー体験」では７割程度が「積極的に参加できた」と回答しており、自由記述では「体を動かし、楽しむことができた」とあげる生徒が多くいた。

また、グラウスマウンテンでの活動における「カナダ自然に対する理解・興味の深まり」は「とてもよくできた」および「よくできた」を合わせると約半数が肯定的に回答しているが、一方でもう半数はやや否定的な回答である（図２）。肯定的な意見としては「自然を感じながら学ぶことができた」、「日本との違いを感じることができた」など体験的に学ぶことが出来た点をあげている。しかし、否定的なものとしては「英語が聞き取れず、理解できなかった」という回答がほぼ占めており、英語の聞き取りが出来ないことから、レクチャー内容や活動内容が理解できないというものであった。

②「音楽・スポーツ」

「音楽」については上記の通りである。「スポーツ」では、カナダの国民的スポーツ・アイスホッケーについて学び、フロアーホッケーやアイススケート体験をした。また、試合観戦での応援グッズの作成やフレーズを学び、実際にセミプロのホッケーを観戦した。

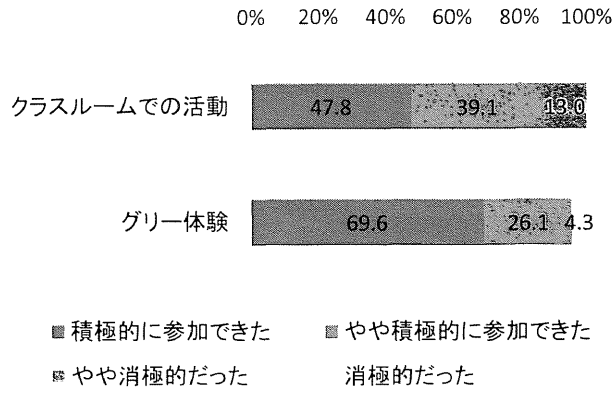

図１　「音楽・自然」の活動への積極性

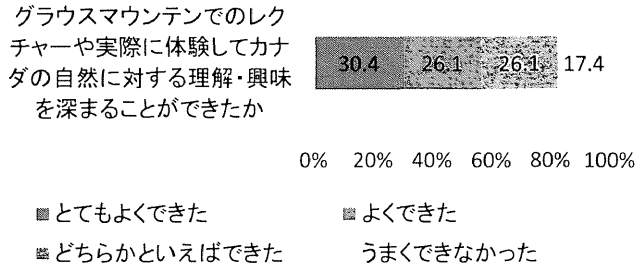

図２　「音楽・自然」の学び

生徒たちの活動の積極性については、「クラスルームでの活動」は半数が「積極的に参加できた」としているのに対し、「グリー体験」および「フロアーホッケー・アイススケート体験」は64.3%が「積極的に参加できた」と回答している（図３）。このことから、より体験的に学べる活動は積極的に取り組むことが出来ていると言える。実際に「バディと仲良くなることが出来た」とグリー体験やスポーツを通して現地学生と交流を深めることができた点をあげる者が多かった。

また、特に「スポーツ」での学びにおいては「ホッケーに関する知識・興味を深めることができた」は「とてもよくできた」と「よくできた」を合わせると全員が肯定的に回答している（図４）。「試合を観戦したことで理解が深まった」との記述も多い。さらにアイスホッケーはカナダ特有のスポーツであったが、その学びについて「実際に体験することでテーマに関する知識・興味を深められた」もほぼ肯定的意見であるが、14.3%は「どちらかといえばそう思う」と回答しており、「ただスポーツを楽しくしているだけであった」と体験だけでなく、知識を付けられるような内容を欲していた者もいたようである。

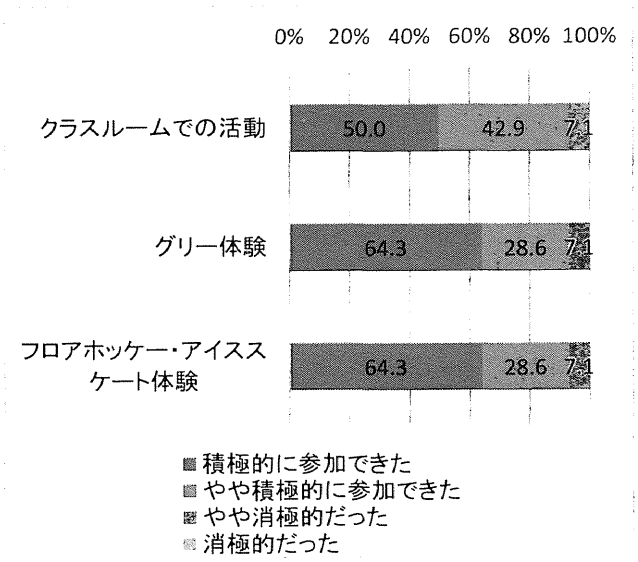

図３　「音楽・スポーツ」の活動の積極性

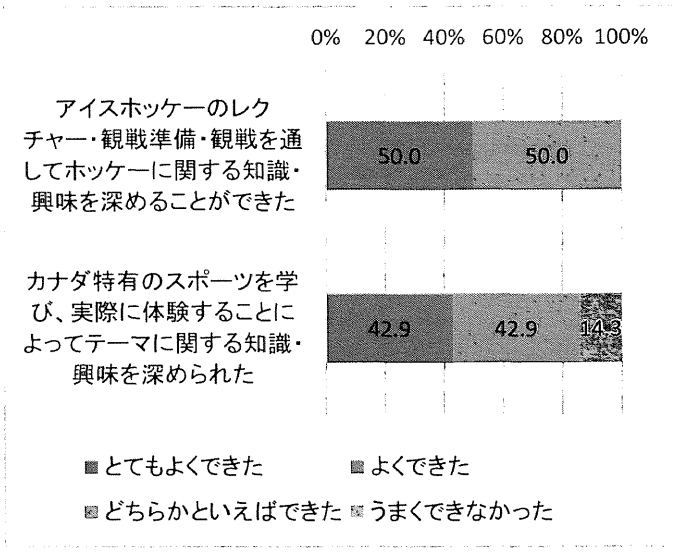

図４　「音楽・スポーツ」の学び

（２）２週間組

２週間組は１週間目に「国・国境」31 名、「先住民文化」31 名、「多文化主義」31 名、２週間目に「音楽・スポーツ」30 名、「先住民文化」29 名「多文化主義」22 名が選択し、それぞれの活動を行った。なお、２週組のうち 12 名は、２週間目に SGH 事業のプロジェクト活動を行ったため、考察アクティビティには参加していない。本節では、２週間組のみが選択できた活動である「国・国境」、「先住民文化」、「多文化主義」の３項目に焦点を絞り、その活動の内容把握と分析を行った。

①「国・国境」

「国・国境」ではカナダとアメリカの歴史を学び、実際にカナダ国境を越えてアメリカに入国した。初めて日本を離れた生徒も多く、国と国との関係、国境のあり方について考える機会となった。また、日系センターでは、戦前、戦後の日系移民たちの暮らしを学び、その後、カナダに移住してきた世界各国（エチオピア、メキシコ、インド、マレーシア、ルーマニア、ハンガリー、ペルー、イギリス、ハイチ、イラン、タイ（カレン族）、フィジィの 12 か国からの移民との交流を行った。

国境、日系センターでの学びに対して約８割が肯定的な回答をしているのに対し、移民の人たちとの交流では「どちらかといえばできた」「うまくできなかった」の回答が半数を占めている（図５）。「移民の人と話そうとしたが、うまく伝えられなかった」といった意見からも、この結果は生徒たちの英語運用力に加え、移民の人たちの英語力も様々であったため、互いにコミュニケーションをとることが困難だったことが一因として考えられる。

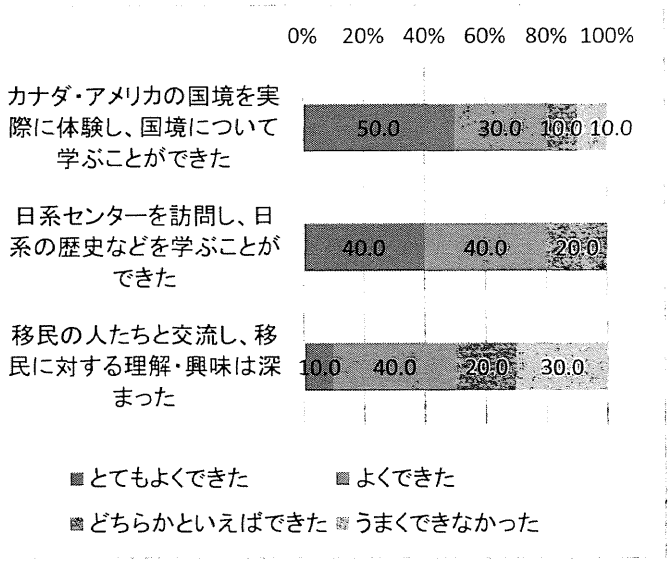

図５　「国・国境」の学び

②「先住民文化」

「先住民文化」では先住民女性から先住民の暮らし、文化などのレクチャーを受けた後、ドリームキャッチャーを作成した。レクチャーにはゲームやダンスも組み込まれており、生徒自由記述にある「カナダや先住民たちがどういう思いで文化を伝えてきたのかがわかった」、「ゲームやドリームキャッチャー作りを通して、先住民についての自然的な考えについて理解を深められた」をはじめ、肯定的な意見が多く見られる。

次に、ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館訪問では、さらに先住民文化の歴史を学んだ。ここでは日本語での解説を加えたこともあり、全員が「とても良くできた」「よくできた」と回答している。さらに、先住民の暮らしを再現したフォートラングリーでは、８割以上の生徒が肯定的回答をしたが、6.3%の生徒が「どちらか

といえばできた」と回答している（図6）。この「どちらかといえばできた」の回答には「雨が降っていて、時間も短くあまりよく見られなかった」といった天候やスケジュールの影響によるものがあげられている。

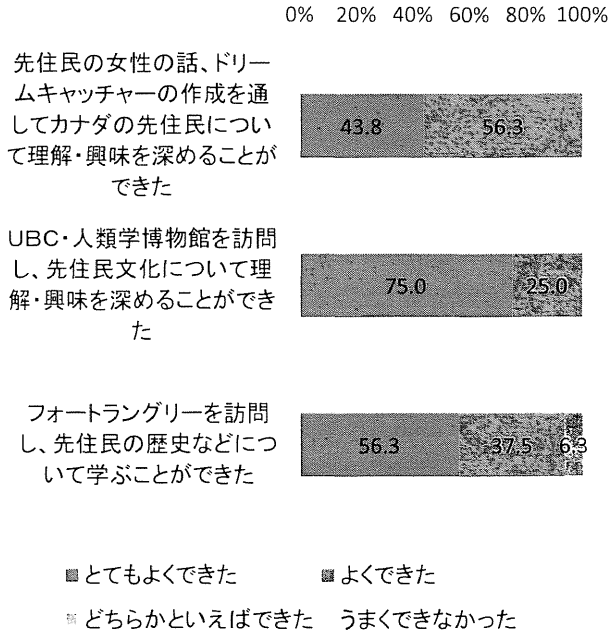

図6　「先住民文化」の学び

③「多文化主義」

「多文化主義」では、ブリティッシュコロンビア大学教授乗松聡子氏による異文化ワークショップで多民族・多文化について学び、イスラム教、シーク教、仏教の寺院を訪れた。

ワークショップ、イスラム寺院、シーク寺院訪問において、9割以上の肯定的な回答があった。仏教会訪問では、イスラム寺院、シーク寺院に比べると数値が低くなるが、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。(図7) 自由記述には「カナダの仏教と日本の仏教の違いについて考えられた」といった新たな発見を述べたものもある一方、「大体のことは知っていた」という意見もあった。

また、このグループでは昼休みを使って、同年代のイスラム教徒との交流を行った。そこでは、学校生活や将来、結婚などの疑問を直接聞く機会となった。

「今までイスラム教について偏見を持っていたなと感じた」や「イスラム教に対する考え方が変わった」の意見にあるように、実際の体験や会話が生徒たちに与えた影響は大きいようだ。

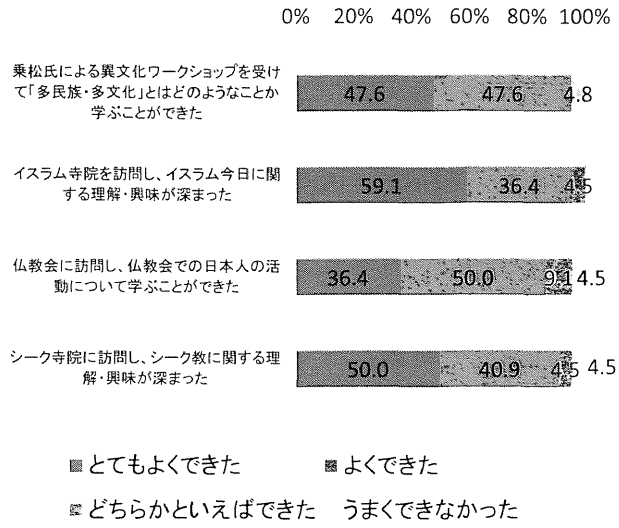

図7　「多文化主義」の学び

4-2　ホームステイ

今年度のカナダ校外学習では、全ての生徒がホームステイを体験した。ホームステイは、基本的には1家庭につき生徒二人で割り振りをしたが、生徒の希望があれば1家庭に生徒1人で割り振ることにした。1週間組の生徒 64 名のうち、1人でホームステイを希望した生徒は3名、二週間組の生徒 94 名のうち、1人でホームステイを希望した生徒は 17 名であった。

バンクーバーに到着した初日は全員で市内のホテルに宿泊し、翌日の午前中にスタディセンターに移動してホストファミリーに迎えに来てもらった。1週間組は最終日まで、二週間組は最終日のホテルの宿泊以外は全てホストファミリーと一緒に過ごした。バンクーバー到着が金曜日であったため、土曜日のお昼には全員ホストファミリーと対面し、休日をホストファミリーと一緒に過ごした。生徒はホームステイの初日から二日続けて、同級生や教員と会うことができないスケジュールであったため、ホストファミリーのお迎えを待つスタディセンターでは、強張った顔をしている生徒が多かった。しかし、それぞれの生徒が日本からお土産を持っていったり、自己紹介のカードを作っていたりし、またホストファミリーも休日を満喫できるように、ショッピングに連れて行ったりしてくれたため、教員の不安とは裏腹に、特に教員に連絡が入ることもなく、各々ホームステイの初日、二日目を楽しんだようであった。その後は、英語での意思疎通が上手くできず、生徒とホストファミリーのボタンの掛け違いがあったところもあったが、スタディセンターでの送り迎え時に、教員が間に入ることで、そういった生徒も、時間をかけて少しずつ、打ち解けることができたようであった。

以下に、事後アンケートの結果を示す。積極的に交流できたと回答した生徒は１週間組で 39.5%、二週間組で 47.3%であり、やや二週間組の生徒の方が積極的に交流できた様子が明らかになった。また、自由記述からは、肯定的な意見としては、「なるべくリビングにいるようにして、お菓子作りをしたり、映画を観たり、日本の話しをしたりして思い出がたくさんできた」「毎日お手伝いをして、自分の部屋にこもってしまうことなく積極的に話をすることができました」「普段親とするような会話を自然に盛り込んでいき、失敗もしたが、それなりに出来る限りの交流はできたと思う」などが挙がり、ゲームや外出などの機会で積極的にホストファミリーとコミュニケーションを取っている様子が明らかになった。また、否定的な意見としては、「もう１人ばかり話せていて自分は話ができなかったから」「ファザーとマザーとは交流できたが、ブラザーとシスターとはできなかった」「何を話したらいいのか分からなかった」などが挙がり、二人１組のホームステイで、英語力に差があった場合、片方が積極的に関われる一方でもう片方があまり関わることができない様子や、ホストファミリーの中でも特定のファミリーとあまり交流できなかった様子が明らかになった。

ホームステイは今回の校外学習の柱である。すべての生徒が満足できるとなるよう業者と打合せを重ねたが、結果として「不満」を持った生徒が出てしまった。「不満」に共通していたのは、ホストがコミュニケーションを取ってくれない、またはビジネスライクで自分たちに関わろうとする姿勢がない、というものであった。校外学習取扱業者選定の入札段階での仕様書にはホストファミリーの選定にあたって「日本の中高生を受け入れた実績があり、トラブルがなかったところ」ということをあげた。ただ「受け入れた実績」には単に宿泊場所を提供するだけの役割や2～3 日の滞在を一度だけ経験しているのみのホストもあったようである。本校のプログラムのようにホストファミリーとのコミュニケーションもプログラムの大きな柱とする場合には、発注段階からそのことを明確に示し、そのような対応のできるホストのみを選定してもらうようにする必要があった。このように学校としての基準を前面に出してしまうと、選定できるホストが限られる事になるかもしれないが、そのような場合は学年一斉ではなく分割での実施も検討する必要がある。

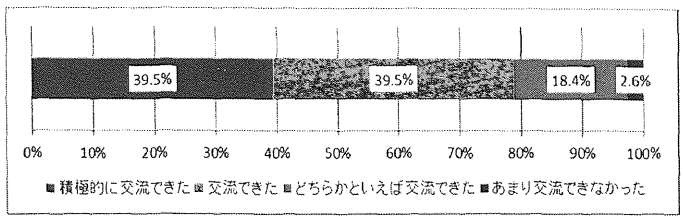

図　１週間組　ホストファミリーとの交流について

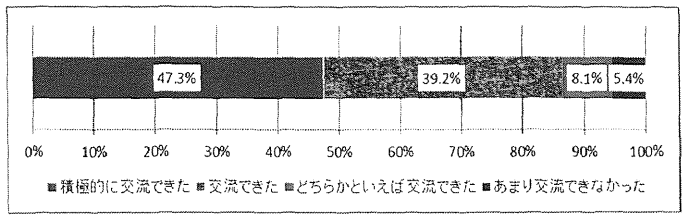

図　二週間組　ホストファミリーとの交流について

4-3　グループ発表

先にあげた「子どもの国際的資質を育てる実践」についての研究の中で、英語で自国文化を紹介する機会を持つことで「自国理解」が高まる効果があるという報告がなされている。そこで、3 月 14 日（月）に１週間目のグループごとに現地コーディネイター、およびバディに対して、自分たちの自己紹介も含め「日本の文化紹介」をテーマとしたプレゼンテーションを下記の要領で行うこととした。具体的に英語を使って発表する機会を提供することで英語の運用力の向上にも期待した。

発表時間：３０分
発表言語：英語
提示資料：模造紙５枚以内（PC、PPT は使用しない）
　　演示・展示などの資料
発表形式：自由（ただし全員が役割を持ってプレゼンする時間があること）

30 分の発表を英語で行うというのは、高校１年生にとってかなりハードルが高い課題ではないか、という指摘もあったが、発表の方法を工夫しながら自分たちにできる範囲で取り組むように説明し、14 時間程度準備の時間を確保した。発表の企画から資料の準備まで、この時間だけでは足りないため、冬休み期間や放課後に個人でまたグループでの活発な活動が見られた。

現地では現地コーディネイターへの説明が不十分な部分があり、せっかく準備したにもかかわらず発表の時間を確保してもらえなかった班もあるなど、混乱する場面もあった。班別研修活動について学校の希望を渡航前に伝える場合その情報は、学校 → 取扱業者 → 現地取扱業者 → コーディネイター → 各コーディネイターと何人もの手を渡って伝えられることになる。そのため、「学校の思い」

が十分に伝わらないことがある。これは海外校外学習の宿命かもしれないが、特に1回目の実施にあたっては、このようなことを前提としてもう少し丁寧に準備する必要があったと考えている。生徒の事後アンケートによると、8割程度の生徒はよく取り組むことができたという肯定的な回答であったが、準備不足や練習不足であったり、提示資料を忘れたり、緊張で英語を話すことができなかったという生徒もいたようである。

4-4　課題研究活動

生徒には校外学習を通して、課題設定、解決策・アクションプランの立案、具体的な調査研究活動、まとめ・報告書作成という、課題研究の一連の流れを体験させることとした。まず、課題研究において最も難しいのはテーマの設定である。テーマの設定は大変難しく、3年次の卒業研究を行う場合も生徒が最も躓く部分である。ただ、この躓きを克服しなければ課題研究は進まない。あえて、この難しい課題を生徒に課したのは、2年次に予定されている T-GAP、それに続く課題研究（卒業研究）への準備のためでもある。とはいえ、1年次の段階で十分に研究につながる課題を設定するのはやはり難しい。そこで、まずテーマ設定について3段階のステップを踏ませ、できるだけ研究課題に近づけさせるようにした。第一段階は、生徒の中にある素朴な疑問や気づきから問題を見つけさせるワークである。この段階ですでに研究につながる課題を見つける生徒もいるがその数は限られており、多くの生徒は「カナダの○○について」とか「カナダ人は○○か」、「日本の○○とカナダの○○との違い」というテーマをあげてくることが多い。このようなテーマは「知りたいこと」であって「課題」ではない、という説明を行った。確かに知りたいことも課題ではある。知りたいことが課題になるためには、「ただ知りたい」というのではなく、その「知りたいこと」に生徒独自の視点がなければならない。第2段階として「知りたいこと」を「課題」に近づけるために、なぜそのことを知りたいのか、どんな切り口でその知りたいことを考えるのかというように、知りたいことに何かを追加して考えるように説明し、テーマの再考を指示した。例えば先ほどのテーマ例であれば、「カナダの○○について～私が持つ違和感～」、「カナダ人は○○か～『格好いい』のとらえ方～」、「日本の○○とカナダの○○との違い～生魚を食べる視点から～」といった形である。第3段階は考察アクティビティと自分の問題意識と結びつけて1つの課題とするというものであるが、これは1年次生にとってかなりハードルが高い（第2段階の指示を行うときに、第3段階の指示も行った）。冬休み前に第2段階の指示をして、冬休み明けにワークシートを回収することとした。生徒が提出したワークシートの内容を確認したところ、苦戦している生徒が一定程度いたため、追加の指導として担任がそれぞれの生徒と面談し個別に指導を行った。適切にテーマ設定を行うことができれば、渡航前にどのような準備が必要か、渡航中に何をしなければならないか、つまり解決策・アクションプランの立案ができるようになる。今回の課題研究活動ではこのテーマ設定に重点をおいて指導を行った。

テーマ設定の後は、生徒の自主的な活動に任せた。渡航前に校内でアンケートやインタビュー調査をするもの、現地ではホストファミリー、バディ、コーディネイターに対して調査への協力を求めたり、ショッピングセンターやテーマに関する施設を見学に行ったり、あるいはブリティッシュコロンビア大学で大学生に対して飛び込みのインタビューを行うなど、積極的に活動する様子が見られた。

帰国後には、A4用紙で4枚の報告書を提出させた。報告書の書式や体裁はあまり問わないこととした。課題研究の報告書作成は初めての生徒がほとんどで稚拙なものが多かったが、これについては想定された範囲である。報告書のまとめ方等については、2年次以降の T-GAP や卒業研究を進める中で指導することとなっている。卒業研究を仕上げた時に、今回の報告書を見返し、卒業研究との比較の中から自分の成長を実感するものであればよいと考えている。またこの報告書はクラスごとに全員分をまとめて冊子とし、カナダ校外学習の成果物の1つとした。

5.　まとめ

カナダ校外学習は本校にとって初めての行事であり、初年度となる現1年次は試行錯誤しながら目標達成に必要と考えられる活動を行ってきた。プログラムは事前学習をはじめたときにしっかりと決まっていたわけではなく、事前学習をしながら現地でのプログラムをつくっていくという作業であった。また生徒の基本的スキル（英語力をはじめ基本的生活習慣や体力まで）を考慮した活動としなければならないため、その分当初の予定とは違ったり、新しい指導が必要になったりと、取り組み全体にまとまりがなくなるという状況もあった。

校外学習の目的は、①地球市民性の早期の育成を図る、②自文化とは異なる文化との個人的・直接的な交流を通じて、自文化ならびに異文化について学びあい、また、多文化共生への視点を養う、③自文化とは異なる多様な社会環境・自然環境を体験し、国際的視野を広げる、である。今回のプログラムがこの目標を達成するものになってい

たか。生徒へのアンケート結果から振り返りたい。まず、多くの生徒（95%）が校外学習に対して積極的に取り組むことができたと評価している。指導、引率した教員としても、生徒達は事前学習の段階から教員の指示を踏まえて、よく活動することができたのではないかと評価している。またこの校外学習が今後自分にとって役に立つと考えている生徒も同様の傾向である。自由記述をみると役に立つ分野として英語の学習に対する言葉が多く見られた。この影響かどうかはっきりと検証できてはいないが、毎学期実施している英語能力試験について、1年次3学期（渡航前）と2年次1学期末の結果を比較すると大きな向上が見られた。校外学習全体を通しての満足度についてもほとんどの生徒が満足だったと回答している。自由記述には新しい文化を知ることの喜びや、外国語を使ってコミュニケーションを取ることの楽しさについての記述が多く見られた。

先にあげた3つの目的のうち②と③については概ねその目的を達成できたと考えている。②の「多文化共生の視点を養う」という点については、校外学習のフィールドとしてカナダを選択したことは期待通りであった。例えば、一緒に活動してくれたバディやホストファミリーはそれぞれ欧米系、中華系、南米系、アラブ系など様々なバックグラウンドをもつ人々であった。身近にそのような方々と交流を持ちながら研修や生活をすることができたことは、生徒にとって違いを認める大切さを考える貴重な機会となった。

一方、①の「地球市民性の早期育成」という点について評価するためには、そもそも「地球市民性」とはどのような資質をいうのか、ということを定義しなければならい。この地球市民性とは何か1つの能力や態度のことを指しているのではなく、例えば「生きる力」とか「国際的資質」と同じように、多くの能力や側面を網羅的に指し示す言葉であると理解している。その多くの能力や態度の中で、この校外学習においては、コミュニケーション力の向上を目指した。これまで学習した英語を使った積極的なコミュニケーションを行うことはもちろんである。ただそれだけにとどまらず仮に言葉が通じる場面が少なかったにしても、親、兄弟姉妹、教員、友達以外の多くの人たちとの交流を通して、人とつながることの楽しさや知らないことを知ることへの欲求を作興できたか、また社会の一員として自分に何ができるのかについて考えることができたかどうかについて生徒アンケートの自由記述をもとに評価する。英語の学びに対して多くの生徒がコメントを寄せている。英語を単に勉強しなければならないもの、というとらえ方ではなく、コミュニケーションツールとして考えることができるようになったという意見である。また、様々な経験を通して、日本にいるときには考えなかったことも考えるようになった、意識が変わったという意見も多数あった。先に校外学習の満足度が高いというアンケート結果についてあげたが、これは今回の校外学習が多くの体験や経験をする機会があったこと、それらを通して自分自身の変化を実感できる活動であったことがそのような結果となったと考えている。一方で社会の一員という自覚が向上したという内容の記述はほとんど見られなかった。考察アクティビティにおいても、個人と社会とのつながりを意識したまとめなどが行われなかったのが要因として考えられる。ただ、英語を使って自分と社会を結びつける考察を含めた授業を行うには相当の英語力が要求される。現地の活動だけでは十分でなかった。これを補うためにも帰国後に振り返りの授業の中で取り上げ、生徒の考察を深める活動を行うべきであったと考えている。

本来、目的が達成されたかどうかの評価は、教員側にそれを測定するための定性的あるいは定量的な価値があり、その価値に基づいて現地での生徒の行動の様子を逐次記録しその評価をしたり、自由記述にかかれている言葉をテキストマイニングなどの手法を用いて分析したりするなど丁寧な考察を必要とする。今回の評価は教員の主観と生徒の感想を材料としたものであり、客観性に欠けるといわざるをえない。今回の校外学習は初年度ということもあり、活動プログラムをつくりながら事前学習も同時に進める、また現地においてもスタッフにこちらの意図が伝わっておらず、修正をお願いしながらプログラムを進めた。このようなことから校外学習が生徒に対してどのような変容をもたらすのか検証することまでを見通した計画を立てられなかったことが、このような報告の形となってしまった原因である。次年度以降、カナダ校外学習の実績を積み上げるなかで、校外学習のプログラムの教育的な影響や効果について少しずつでも明らかにされていくことを期待したい。

最後に校外学習の具体的な行程表を資料2としてあげる。この行程表も出発の1週間前に確定したものである。

【資料１】

カナダ校外学習概要

《事前学習》

全体に関する学習

- 調べ学習（カナダの基本）「グループ」
- 異文化ワークショップ「クラス」
- カナダ大使館出前講義「学年」
- ﾎｰﾑｽﾃｲｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ「学年」
- AIMS交流会「グループ」
- その他説明会など「学年」

課題研究に関する学習

- 考察アクティビティテーマ学習「個人」
- 個人テーマ（課題）設定「個人」

英語運用に関する学習

- グループ別日本文化紹介
  発表会準備「グループ」
- 英語会話集中講講座「グループ」

《現地の活動》

- 考察アクティビティ（3日間１活動単位）
- グループ別日本文化紹介発表会
- 個人テーマに沿った調査研究
- ホームステイ
- UBC研修（2週間グループ）
- ゴードン門田氏講演会
- バンクーバー市内研修

《事後学習》

報告書の作成

- 個人テーマ（課題）に関する報告書作成
- 報告書をもとにした発表会

※報告書はA4用紙4枚　日本語または英語

【資料2】カナダ校外学習行程表

日付	時間	バス	1週間組(63PAX)		2週間組①(81PAX)+2週間組②(12PAX)			2週間組②(12PAX)		補足・変更点・バスの割り振り
			スポーツ・音楽 **Sports & Music** (9×3GRP)	**自然・音楽** **Nature & Music** (9×4GRP)	**多文化主義** **Multi-Culture** (3GRP…10,10,11)	**先住民文化** **First Nations** (3GRP…9,10,11)	**国・国境** **Nikkei Border** (3GRP…10,10,11)			
11-Mar		4台*	10:35 JLにて到着。 バスにてスタンレーパークへ向かう。	10:35 JLにて到着。 バスにてスタンレーパークへ向かう。	10:40 AC にて到着。 バスにてスタンレーパークに向かう	10:40 AC にて到着。 バスにてスタンレーパークに向かう				*ホテルのペア＝班別行動のペアを基本にバスの割り振り
	12:00頃		スタンレーパークにて自由行動(20～30分程度)		スタンレーパークにて自由行動(20～30分程度)					
	12:30頃		ガスタウンにて降車。 班別行動でホテルへ	ガスタウンにて降車。 班別行動でホテルへ	ガスタウンにて降車。 班別行動にてホテルへ	ガスタウンにて降車。 班別行動にてホテルへ				
	16:30		ホテルチェックイン。 鍵を受け取り、各部屋へ移動。							
	17:00 19:00		17:00 テーマごとにホテルのロビー集合 全員揃ったところで誘導のもとレストラン(献様)に向かい、食事。(テーマごとに固まって座る) 全員が揃ったところで連絡事項のアナウンス。食事終了後、食べ終わったテーマごとにホテルに戻る。※19:00までにはレストランを出る							
	10:30		消灯							
12-Mar	7:30 8:30		7:30～ 各自朝食(@1階のホール)		7:45～ 各自朝食(@1階のホール)					*1週間組はレクチャー前にスーツケースを下に持ってくる。
	9:30 10:30		ゴードン氏の講演(@1階のホール)*							
	11:00		ホテルチェックアウト							
		4台 (テーマごと)	バスでホームステイエリアに向かいます	バスでホームステイエリアに向かいます	バスでホームステイエリアに向かいます。	バスでホームステイエリアに向かいます。				
	12:00		ホストファミリーと対面。ホームステイ開始。		ホストファミリーと対面。ホームステイ開始					
13-Mar			ホストファミリーと過ごす							
14-Mar	AM		T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center Ice Breaking Game 筑坂生によるプレゼン お金とオーダーのレッスン	T/C:4 Buddy: 2人×4 @Sutdy Center Ice Breaking Game 筑坂生によるプレゼン お金とオーダーのレッスン	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center Ice Breaking Game 筑坂生によるプレゼン お金とオーダーのレッスン	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center Ice Breaking Game 筑坂生によるプレゼン お金とオーダーのレッスン	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center Ice Breaking Game 筑坂生によるプレゼン お金とオーダーのレッスン			
	PM	6台	Local Mall訪問	Local Mall訪問 ※バス2台	Local Mall訪問	Local Mall訪問	Local Mall訪問			
15-Mar	AM	1台	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center 歌の練習、バディと体育館でスポーツ	T/C:4 Buddy: 2人×4 @Sutdy Center 歌の練習 自然について学ぶ	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center 多文化主義のワークショップ by乗松聡子	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center 先住民の特徴を学ぶ	T/C:3 Buddy: 2人×3 カナダとアメリカの国境体験*1			
	PM		歌とダンス グリー体験			先住民女性からの指導でドリームキャッチャー作成				
16-Mar	AM	6台	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Study Center(一部外出) ホッケーについて学ぶ バディと体育館でフロアホッケー	T/C:4 Buddy2名×4 グラウスマウンテン ※バス2台	T/C:3 Buddy: 2人×3 様々な宗教施設訪問 ・イスラム寺院*3 ・仏教会 ・シーク教の寺院	T/C:3 Buddy:2人×3 UBC人類学博物館訪問	T/C:3 Buddy: 2人×3 日系センター訪問*4			*3 イスラム寺院に持っていくお菓子肉系が入っているもの、肉系の味付けがしてあるものはNG *4 日系センター訪問が追加 *5 移民センターに訪問する代わりに移民の方をスタディーセンターに招く
	PM		13:30-14:30 アイススケート ホッケー観戦のsignage作成 17:30-21:00 ホッケー観戦			フォートラングリー訪問	Study Center 移民についての学習・移民の人たちとの交流*5			
17-Mar	AM PM		T/C:3 Buddy:2人×3 プログラムのまとめ 感想発表会 Thank youカード作成	T/C:4 Buddy:2人×4 プログラムのまとめ 感想発表会 Thank youカード作成	T/C:3 Buddy:2×3 プログラムのまとめ 感想発表会	T/C:3 Buddy:2×3 プログラムのまとめ 感想発表会	T/C:3 Buddy:2×3 プログラムのまとめ 感想発表会			
					スポーツ・音楽 **Sports&Music** (3GRP…10,9,10)	**先住民文化** **First Nations** (3GRP…10,9,10)	**多文化主義** **Muiti-Culture** (2GRP…11,11)	**異文化** **Japanese** (1GRP…6)	**環境** **Environment** (1GRP…6)	
18-Mar	AM	2台+3台*	9:00 スタディーセンターに集合。 空港へ向けて出発	9:00 スタディーセンターに集合。 空港へ向けて出発	T/C:3 UBC訪問 ・UBC学生との交流 (1GRPにつき1名予定) ・Interview Activities	T/C:3 UBC訪問 ・UBC学生との交流 (1GRPにつき1名予定) ・Interview Activities	T/C:3 UBC訪問 ・UBC学生との交流 (1GRPにつき1名予定) ・Interview Activities			・2週間②は一番人数の少ないMuiti-Cultureと同じバスに *1 試合の関係で、ホッケーの観戦日が変更
	PM		13:40 成田へ向け出発	13:40 成田へ向け出発	*1 14:30-17:40 ホッケーについて学ぶ・観戦準備 (signage作成)@UBG room 19:30-22:00 ホッケー観戦 w/UBC Buddy	14:30 UBC出発ー研修地へ向かいます	14:30 UBC出発ー研修地へ向かいます			
19-Mar			16:30 到着、解散		ホストファミリーと過ごします。					
20-Mar					ホストファミリーと過ごします。					
21-Mar		3+2台			T/C:3 Buddy:2人×3 <バンクーバー観光> リンバレー・吊り橋見学 ローンズデールキーにてバス降車 ウォーターフロント駅にてバス乗車 バーナビー美術館	T/C:3 Buddy:2人×3 <バンクーバー観光> ウォーターフロント駅にてバス降車 ローンズデールキーにてバス乗車 リンバレー・吊り橋見学 バーナビー美術館	T/C:2 Buddy:2名×2 <バンクーバー観光> ローンズデールキーにてバス降車 ウォーターフロント駅にてバス乗車 リンバレー・吊り橋見学 バーナビー美術館	Facilitator: Johm Hamanaka バンクーバー日本語学校訪問	Facilitator: Shiori Ito Buddy:1 スタンレーパーク訪問 10-11:30 Conservation Tour バンクーバー水族館	
22-Mar	AM	2台			T/C: 3 Buddy:2人×3 @Sutdy Center 歌の練習、バディと体育館でスポーツ フロアホッケー(予定)	T/C:3 Buddy: 2人×3 @Sutdy Center 先住民の特徴を学ぶ	T/C:2 Buddy: 2人×2 @Sutdy Center 多文化主義のワークショップ by乗松聡子	Facilitator: Rhys Williams Buddy:1 10:30ー12:00 地元のセカンダリースクールで日本語を学ぶ生徒との交流・日本語教育のシステムを学ぶ @日本食レストラン	Facilitator: Shiori Ito Buddy:1 10:30ー12:00 Four Seasons Hotel訪問	
	PM				歌とダンスの「グリー体験」	先住民女性からの指導でドリームキャッチャー作成		14:00ー14:30 スタジオ訪問	13:00-14:30 Olympic Oval Mr.Kimi Itoによるレクチャーとツアー	
23-Mar	AM	3台+2台			T/C: 3 Buddy:2人×3 9:45-10:45 アイススケート*1	T/C:3 Buddy:2人×3 UBC人類学博物館訪問	T/C:3 Buddy: 2人×2 様々な宗教施設訪問 ・イスラム寺院*3 ・仏教会 ・シーク教の寺院	Facilitator: John Hamanaka Buddy:1 10:30-12:00 矢野アカデミー訪問 カナダでの日本語教育と新渡戸稲造についてのレクチャー	Facilitator: Shiori Ito Buddy:1 ゴミ関連施設・リサイクルデポ訪問 UBCや各施設にてインタビュー	*1 アイススケート追加
	PM				13:30-15:00 5ピンボーリング*2	フォートラングリー訪問		13:00-14:00 新渡戸稲造庭園見学(UBC) 14:00ー16:00 UBCアジアンセンター訪問 Dr.Chauからのレクチャー		*2 ホッケー観戦日の変更により、アクティビティーの内容が変更 *3 イスラム寺院に持っていくお菓子肉系が入っているもの、肉系の味付けがしてあるものはNG
24-Mar					T/C: 3 Buddy:2人×3 @Sutdy Center プログラムのまとめ 感想発表会 Thank you card作成	T/C: 3 Buddy:2人×3 @Sutdy Center プログラムのまとめ 感想発表会 Thank you card作成	T/C: 2 Buddy:2人×2 @Sutdy Center プログラムのまとめ 感想発表会 Thank you card作成	Facilitator:Rhys Williams T/C: 1 Buddy:1 @Sutdy Center プログラムのまとめ テーマに関するプレゼンテーション	Facilitator:Shiori Ito T/C:1 Buddy:1 @Sutdy Center プログラムのまとめ テーマに関するプレゼンテーション	
25-Mar		3台*			7:15 スタディーセンターに集合。 バスにてFerry Terminal に向かいます。 9:00 フェリーにてバンクーバー島へ。 10:35 ビクトリア観光 入場:ブッチャードガーデン 下車:ダウンタウン、州議事堂 13:00 Fireside Grillにて昼食 17:00 フェリーにてバンクーバーへ。 19:30 ホテルチェックイン。 20:00 夕食(@ Banquet Room) 消灯	7:15 スタディーセンターに集合。 バスにてFerry Terminal に向かいます。 9:00 フェリーにてバンクーバー島へ。 10:35 ビクトリア観光 入場:ブッチャードガーデン 下車:ダウンタウン、州議事堂 13:00 Fireside Grillにて昼食 17:00 フェリーにてバンクーバーへ。 19:30 ホテルチェックイン。 20:00 夕食(@ Banquet Room) 消灯	7:15 スタディーセンターに集合。 バスにてFerry Terminal に向かいます。 9:00 フェリーにてバンクーバー島へ。 10:35 ビクトリア観光 入場:ブッチャードガーデン 下車:ダウンタウン、州議事堂 13:00 Fireside Grillにて昼食 17:00 フェリーにてバンクーバーへ。 19:30 ホテルチェックイン。 20:00 夕食(@ Banquet Room) 消灯			・ビクトリア観光後、ホテルにチェックイン ・ホテルの部屋割りを基本にバスの割り振りをする
26-Mar		3台*			7:30 ホテルにて朝食 10:30 バスにてバンクーバー空港へ向かいます。 11:00 チェックイン・セキュリティーチェック 13:40 成田へ向けて出発	7:30 ホテルにて朝食 10:30 バスにてバンクーバー空港へ向かいます。 11:00 チェックイン・セキュリティーチェック 13:40 成田へ向けて出発	7:30 ホテルにて朝食 10:30 バスにてバンクーバー空港へ向かいます。 11:00 チェックイン・セキュリティーチェック 13:40 成田へ向けて出発			
27-Mar	15:25				到着、解散					